

■ ホンのさわり ■

年間 100万人以上が亡くなる「大量死時代」に突入した日本。独居高齢者が1人で亡くなり、発見が遅れる孤独死も増えつつある。本書では、全国で初めて「遺品整理」の専門会社を立ち上げた著者が、4000件以上の依頼の中から、特に印象深い46事例を紹介している。

死後1カ月たって発見された75歳の独居高齢者。部屋はウジ虫の塊だけだった——。腐乱した遺体のにおいが部屋に染みつき、周囲の住民から猛抗議を受け途方に暮れる遺族や大家など、身内はもちろん、縁もゆかりもない他人にも影響が及ぶ実態が生々しく描かれている。

遺品整理屋は見た！

吉田 太一著

「親とは思っていないから、さっさと片づけてくれ」と怒鳴る子どもなど、家族のきずなのもろさを見せつけられる場面もある。だが救いになるのが「死後、他人に迷惑をかけないよう今から遺品処理契約を結んでおきたい」という69歳の依頼主のケース。安心して死ぬために、現実をまず直視することが必要なのだろう。

(扶桑社・1200円=税抜き)

遺品整理屋は見た！

死後死、自殺、老人一人
あなたの隣の「現実にある現実」
吉田太一 (著)・扶桑社

